資料３

令和５年度　食の安全に関するアンケート調査結果

調査方法

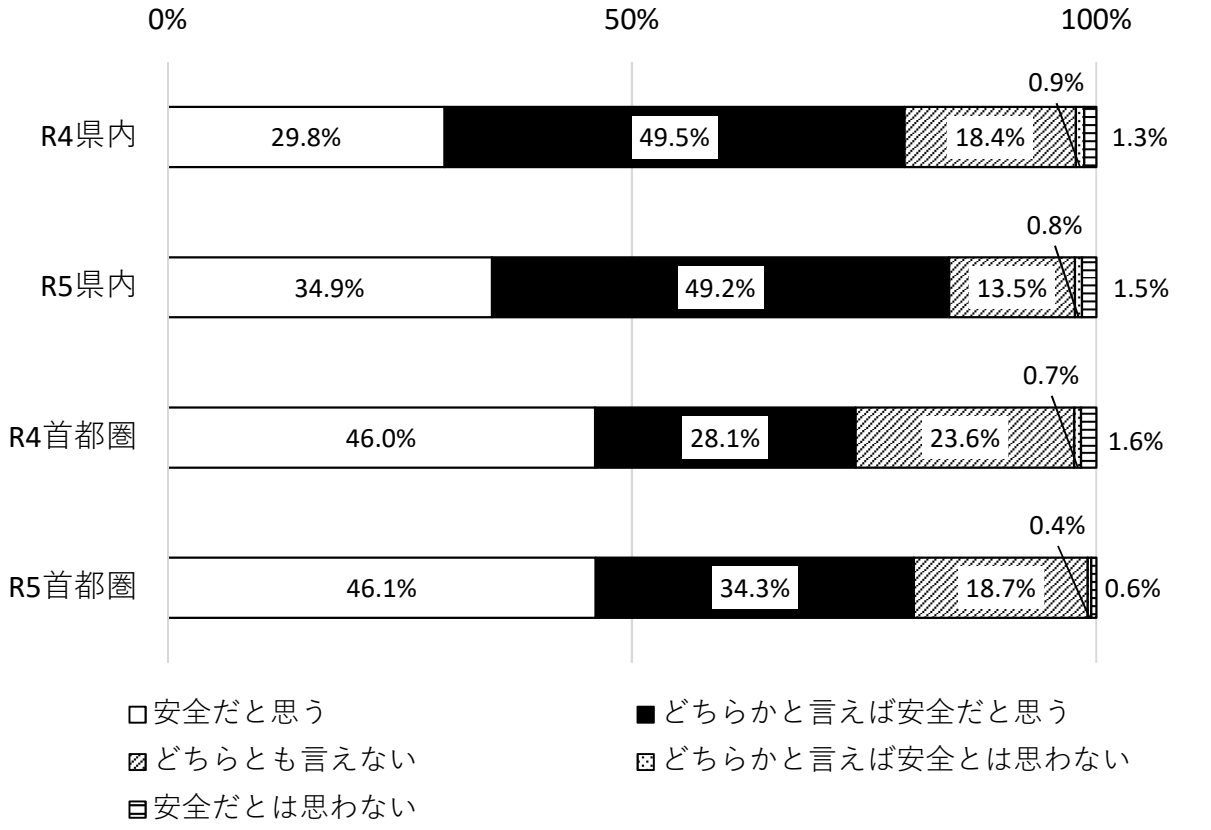
	県内	首都圏
調査時期	令和５年７月 27 日～７月 28 日	
調査方法	インターネットによる調査 （依頼先：㈱マクロミル）	
調査対象者	新潟県内に在住する 20～60 代の男女	東京都、千葉県、埼玉県、 神奈川県内に在住する 20～60 代の男女
回答者数	524 人／524 人 （回答率 100%）	540 人／540 人 （回答率 100%）

調査対象者の構成

	県　　内		首　都　圏	
	男性	女性	男性	女性
20 代	38 人	36 人	47 人	45 人
30 代	50 人	47 人	57 人	54 人
40 代	57 人	54 人	67 人	64 人
50 代	54 人	53 人	50 人	49 人
60 代	67 人	68 人	52 人	55 人

問１　あなたは新潟県内で生産・加工・製造された食品の安全性について、どのように感じていますか。（ひとつだけ）

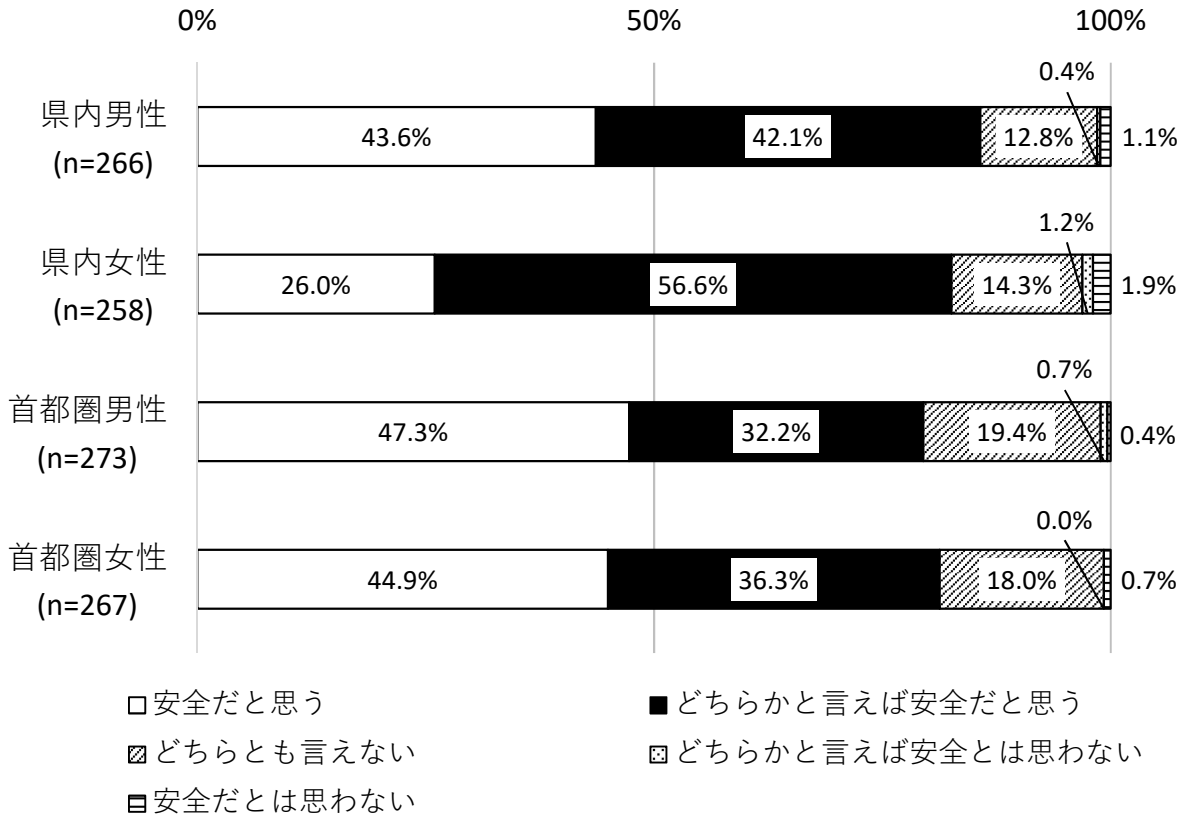
		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%	
1	安全だと思う	162	29.8%	79.4%	183	34.9%	84.2%	254	46.0%	74.1%	249	46.1%	80.4%
2	どちらかと言えば安全だと思う	269	49.5%		258	49.2%		155	28.1%		185	34.3%	
3	どちらとも言えない	100		18.4%	71		13.5%	130		23.6%	101		18.7%
4	どちらかと言えば安全とは思わない	5	0.9%	2.2%	4	0.8%	2.3%	4	0.7%	2.3%	2	0.4%	0.9%
5	安全だとは思わない	7	1.3%		8	1.5%		9	1.6%		3	0.6%	
	回答者数	543			524			552			540		



令和４年度からの変動幅が比較的大きかった部分として、県内については「安全だと思う」の割合が 5.1 ポイント増加し、「どちらとも言えない」の割合が 4.9 ポイント減少した。

首都圏については、「どちらかと言えば安全だと思う」の割合が 6.2 ポイント増加し、「どちらとも言えない」の割合が 4.9 ポイント減少した。

【男女別(R５年度)】



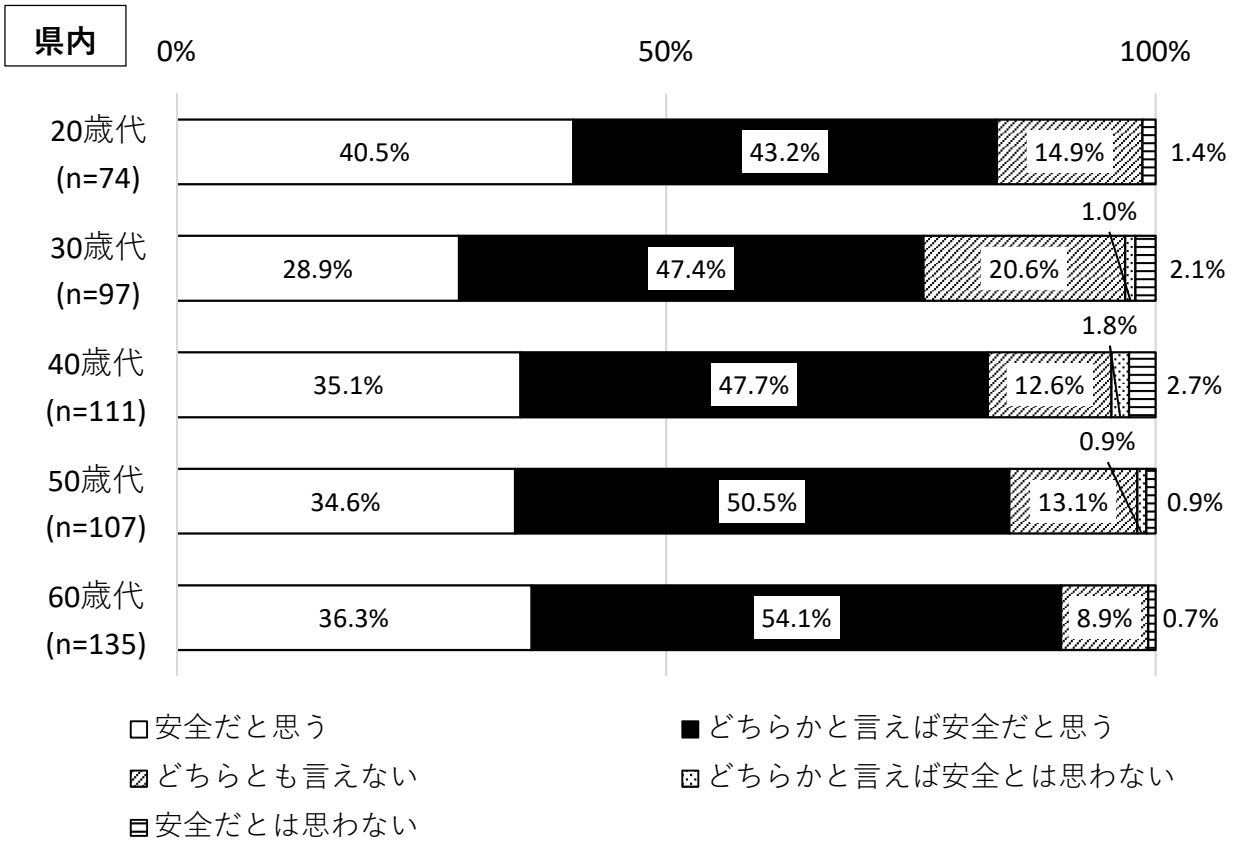
「安全だと思う」の占める割合は、県内、首都圏とも男性の方が多かった。

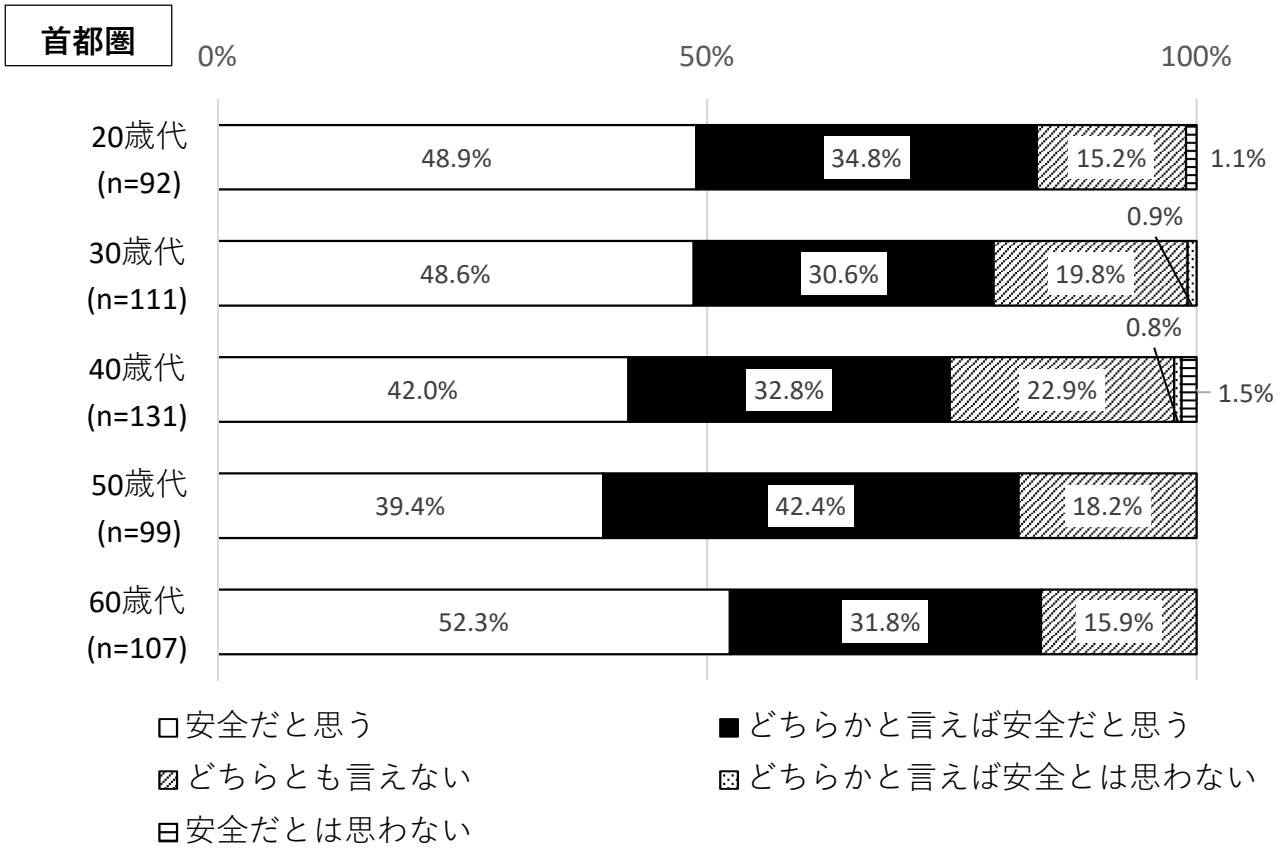
「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合は、県内、首都圏とも女性の方が多く、特に県内女性では、「安全だと思う」の割合を大きく上回った。

「どちらとも言えない」の占める割合は、県内、首都圏とも男女で大きな差はみられなかった。

「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合で比べると、県内男性（85.7%）、県内女性（82.6%）、首都圏女性（81.2%）は80%を超え、首都圏男性（79.5%）は70%台であった。

【年代別(R５年度)】



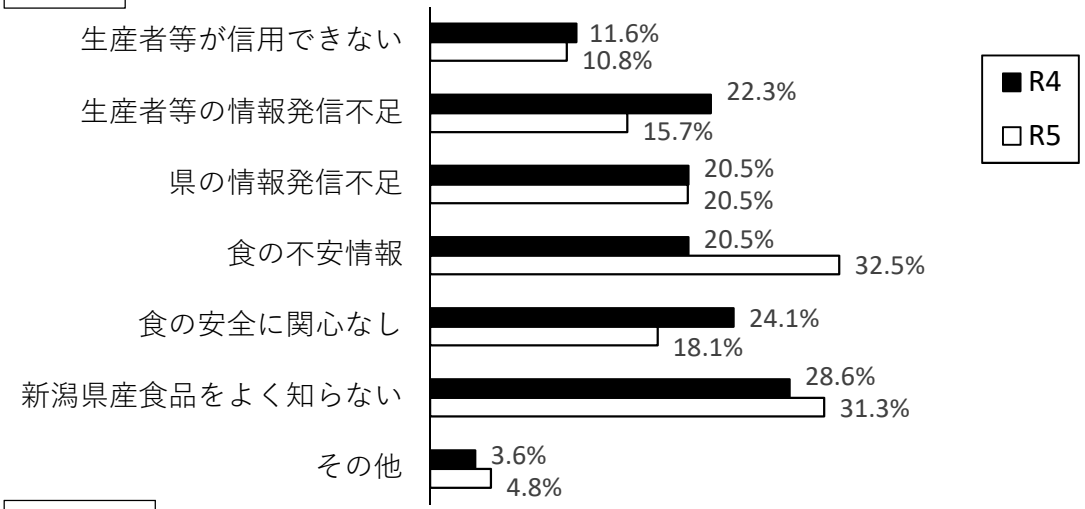


「安全だと思う」又は「どちらかと言えば安全だと思う」の占める割合では、県内では 30 歳代（76.3%）が、首都圏では 40 歳代（74.8%）が低く、働き盛りあるいは子育て世代が、食品の安全性に関してやや不安を感じている傾向がみられた。

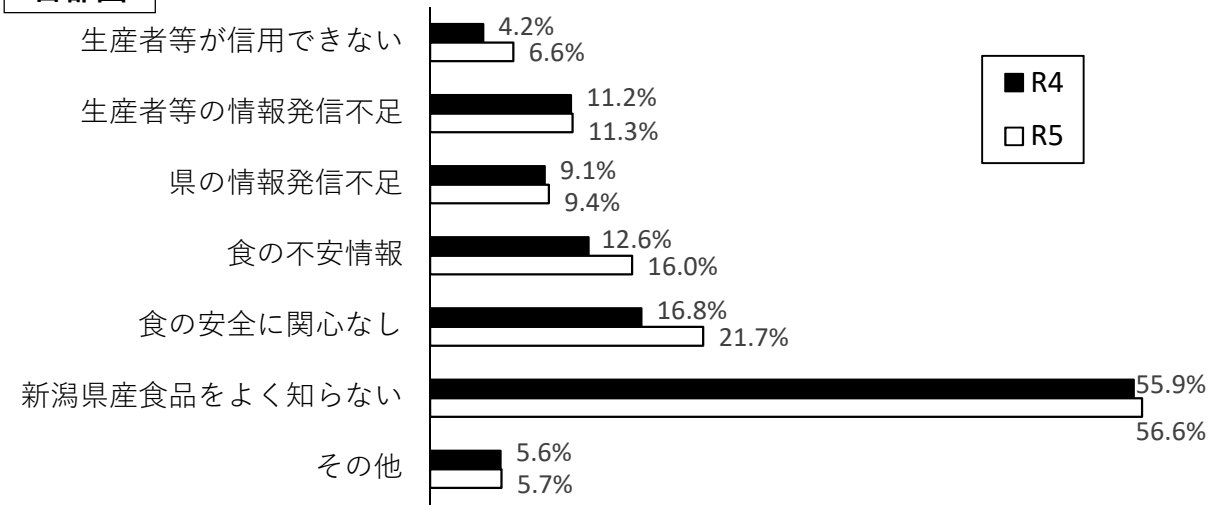
問２　問１で「３　どちらとも言えない」「４　どちらかと言えば安全とは思わない」「５　安全とは思わない」と回答した理由で、あてはまるものはどれですか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	生産者や製造業者が信用できないから	13	11.6%	6	9	10.8%	6	6	4.2%	7	7	6.6%	6
2	生産者や製造業者からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	25	22.3%	**3**	13	15.7%	**5**	16	11.2%	**4**	12	11.3%	**4**
3	県からの食の安全に関する情報発信が不足しているから	23	20.5%	**4**	17	20.5%	**3**	13	9.1%	**5**	10	9.4%	**5**
4	食に関する不安な報道を耳にするから	23	20.5%	**4**	27	32.5%	**1**	18	12.6%	**3**	17	16.0%	**3**
5	食品の安全性について、普段あまり関心がないから	27	24.1%	**2**	15	18.1%	**4**	24	16.8%	**2**	23	21.7%	**2**
6	新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから	32	28.6%	**1**	26	31.3%	**2**	80	55.9%	**1**	60	56.6%	**1**
7	その他	4	3.6%	7	4	4.8%	7	8	5.6%	6	6	5.7%	7
	回答者数	112			83			143			106		

県内



首都圏



「その他」回答内容

・情報の真贋の見極めが難しいから
・新潟県がどうという問題ではなく、全国どこも同じと思う
・善人もいれば悪人も必ずいるから
・福島県と近いから　　など

※「よくわからないから」（３名）、「あまり考えていない」（２名）、「特になし」（１名）など、明確な理由を持たない者も見られた。

県内では「食に関する不安な報道を耳にするから（32.5%）」が最も多かった。

首都圏では「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから（56.6%）」が最も多く、その他の選択肢についても、令和４年度と概ね同様の傾向であった。

【男女別（R５年度）】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	生産者等が信用できない	13.2%	8.9%	10.7%	2.0%
2	生産者等の情報発信不足	7.9%	22.2%	10.7%	12.0%
3	県の情報発信不足	15.8%	24.4%	7.1%	12.0%
4	食の不安情報	23.7%	**40.0%**	16.1%	16.0%
5	食の安全に関心なし	**28.9%**	8.9%	26.8%	16.0%
6	新潟県産食品をよく知らない	26.3%	35.6%	**48.2%**	**66.0%**
7	その他	5.3%	4.4%	3.6%	8.0%

県内では、男性に比べ女性の方が「生産者等の情報発信不足」、「県の情報発信不足」、「食に関する不安な報道を耳にするから」を選択した割合がそれぞれ14.3ポイント、8.6ポイント、16.3ポイント高く、食品の安全性に関する報道への不安や情報発信不足を感じている傾向がみられた。

首都圏では、「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」を選択した割合が男女ともに高く、特に女性では男性に比べ、17.8ポイント高かった。

一方で、「食品の安全性について、普段あまり関心がないから」と回答した割合は、県内、首都圏ともに男性の方が多かった。

【年代別（R5 年度)】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	8.3%	13.0%	10.5%	12.5%	7.7%
2	生産者等の情報発信不足	8.3%	17.4%	5.3%	25.0%	23.1%
3	県の情報発信不足	**25.0%**	17.4%	15.8%	25.0%	23.1%
4	食の不安情報	8.3%	39.1%	**47.4%**	25.0%	**30.8%**
5	食の安全に関心なし	**25.0%**	17.4%	10.5%	12.5%	**30.8%**
6	新潟県産食品をよく知らない	**25.0%**	**47.8%**	26.3%	**31.3%**	15.4%
7	その他	16.7%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%

＜首都圏＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	生産者等が信用できない	0.0%	13.0%	12.1%	0.0%	0.0%
2	生産者等の情報発信不足	6.7%	21.7%	9.1%	0.0%	17.6%
3	県の情報発信不足	6.7%	13.0%	3.0%	5.6%	23.5%
4	食の不安情報	13.3%	17.4%	12.1%	22.2%	17.6%
5	食の安全に関心なし	13.3%	39.1%	21.2%	16.7%	11.8%
6	新潟県産食品をよく知らない	**73.3%**	**52.2%**	**51.5%**	**50.0%**	**64.7%**
7	その他	0.0%	0.0%	6.1%	22.2%	0.0%

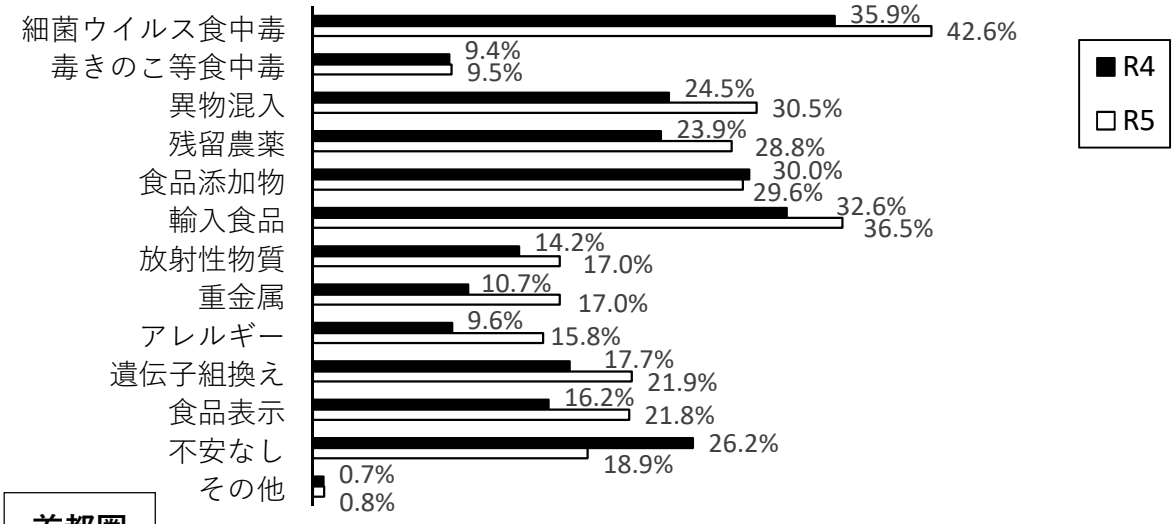
県内では、年代によって最も多く選択された理由にばらつきがあったが、全ての年代で「生産者等が信用できない」と回答した割合は比較的低かった。

首都圏では、「新潟県内で生産・製造された食品のことをよく知らないから」が、すべての年代で最も多かった。

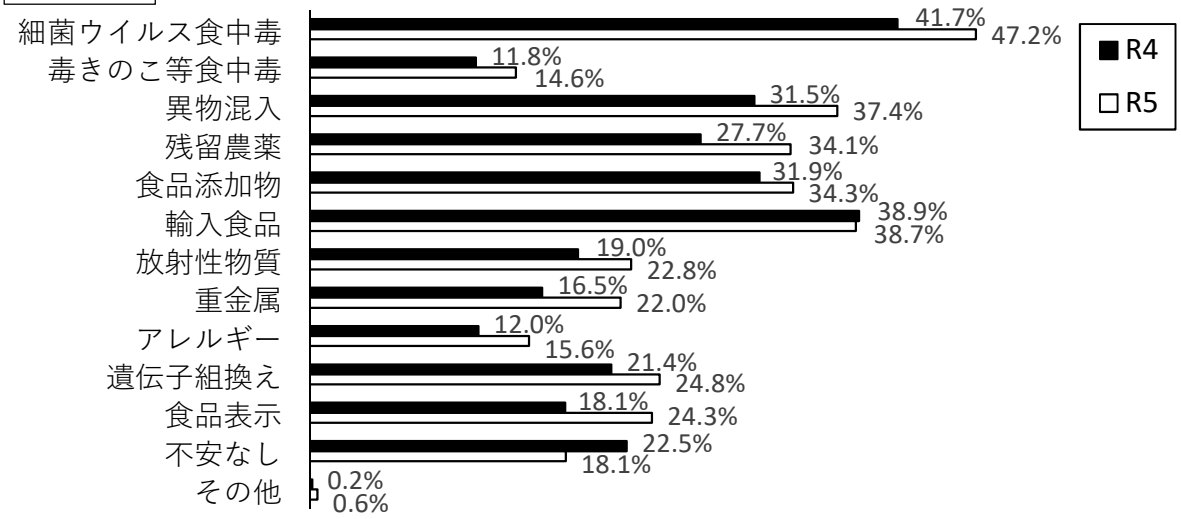
問３　あなたが、普段の食生活の中で、食の安全に関して不安を感じていることは何ですか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	細菌やウイルスによる食中毒	195	35.9%	**1**	223	42.6%	**1**	230	41.7%	**1**	255	47.2%	**1**
2	毒きのこや有毒植物による食中毒	51	9.4%	12	50	9.5%	12	65	11.8%	12	79	14.6%	12
3	食品への異物混入	133	24.5%	**5**	160	30.5%	**3**	174	31.5%	**4**	202	37.4%	**3**
4	農薬の残留	130	23.9%	6	151	28.8%	**5**	153	27.7%	**5**	184	34.1%	**5**
5	食品添加物の使用	163	30.0%	**3**	155	29.6%	**4**	176	31.9%	**3**	185	34.3%	**4**
6	輸入食品の安全性	177	32.6%	**2**	191	36.5%	**2**	215	38.9%	**2**	209	38.7%	**2**
7	放射性物質による汚染	77	14.2%	9	89	17.0%	9	105	19.0%	8	123	22.8%	8
8	水銀やカドミウムなど重金属による汚染	58	10.7%	10	89	17.0%	9	91	16.5%	10	119	22.0%	9
9	食物アレルギー	52	9.6%	11	83	15.8%	11	66	12.0%	11	84	15.6%	11
10	遺伝子組換え食品の使用	96	17.7%	7	115	21.9%	6	118	21.4%	7	134	24.8%	6
11	食品の表示や宣伝に対する信頼性	88	16.2%	8	114	21.8%	7	100	18.1%	9	131	24.3%	7
12	普段の食生活で特に不安は感じていない	142	26.2%	**4**	99	18.9%	8	124	22.5%	6	98	18.1%	10
13	その他	4	0.7%	13	4	0.8%	13	1	0.2%	13	3	0.6%	13
	回答者数	543			524			552			540		

県内



首都圏



「細菌やウイルスによる食中毒」、「輸入食品の安全性」、「食品添加物の使用」及び「食品への異物混入」が上位を占めており、この傾向は前年と同様であった。

【男女別（R５年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	細菌ウイルス食中毒	**31.6%**	**53.9%**	**41.0%**	**53.6%**
2	毒きのこ等食中毒	9.8%	9.3%	13.2%	16.1%
3	異物混入	26.3%	34.9%	33.3%	41.6%
4	残留農薬	25.2%	32.6%	29.3%	39.0%
5	食品添加物	21.1%	38.4%	27.1%	41.6%
6	輸入食品	28.6%	44.6%	29.7%	47.9%
7	放射性物質	12.4%	21.7%	19.4%	26.2%
8	重金属	15.4%	18.6%	17.9%	26.2%
9	アレルギー	12.4%	19.4%	14.7%	16.5%
10	遺伝子組換え	16.2%	27.9%	20.5%	29.2%
11	食品表示	17.3%	26.4%	19.8%	28.8%
12	不安なし	24.4%	13.2%	22.3%	13.9%
13	その他	1.5%	0.0%	0.7%	0.4%

県内、首都圏ともに、ほとんどの項目で男性より女性のほうが不安を感じている割合が高かった。また、男女ともに「細菌やウイルスによる食中毒」を選択した割合が最も多かった。

男女で 10 ポイント以上の差が生じた項目としては、県内、首都圏ともに「細菌やウイルスによる食中毒」、「食品添加物の使用」、「輸入食品の安全性」であり、これらに加えて県内では「遺伝子組換え食品」も該当した。

一方で、「普段の食生活で特に不安に感じていない」と回答した割合は、県内、首都圏ともに男性の方が多かった。

【年代別（R5 年度)】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	**45.9%**	**44.3%**	**43.2%**	39.3%	41.5%
2	毒きのこ等食中毒	5.4%	8.2%	10.8%	13.1%	8.9%
3	異物混入	37.8%	37.1%	28.8%	23.4%	28.9%
4	残留農薬	18.9%	24.7%	24.3%	34.6%	36.3%
5	食品添加物	20.3%	25.8%	25.2%	31.8%	39.3%
6	輸入食品	16.2%	30.9%	36.0%	**43.9%**	**45.9%**
7	放射性物質	8.1%	15.5%	13.5%	21.5%	22.2%
8	重金属	12.2%	12.4%	18.0%	26.2%	14.8%
9	アレルギー	16.2%	23.7%	17.1%	16.8%	8.1%
10	遺伝子組換え	16.2%	18.6%	18.0%	28.0%	25.9%
11	食品表示	10.8%	19.6%	22.5%	29.9%	22.2%
12	不安なし	16.2%	17.5%	22.5%	19.6%	17.8%
13	その他	1.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%

＜首都圏＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	細菌ウイルス食中毒	**51.1%**	**49.5%**	**45.8%**	37.4%	**52.3%**
2	毒きのこ等食中毒	19.6%	14.4%	15.3%	14.1%	10.3%
3	異物混入	35.9%	40.5%	35.9%	35.4%	39.3%
4	残留農薬	20.7%	34.2%	32.1%	33.3%	48.6%
5	食品添加物	23.9%	36.0%	31.3%	33.3%	45.8%
6	輸入食品	26.1%	32.4%	41.2%	**39.4%**	**52.3%**
7	放射性物質	14.1%	27.9%	19.8%	22.2%	29.0%
8	重金属	17.4%	21.6%	19.8%	21.2%	29.9%
9	アレルギー	18.5%	18.9%	15.3%	12.1%	13.1%
10	遺伝子組換え	13.0%	25.2%	22.9%	29.3%	32.7%
11	食品表示	8.7%	31.5%	19.1%	29.3%	31.8%
12	不安なし	22.8%	18.0%	16.0%	21.2%	14.0%
13	その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.9%

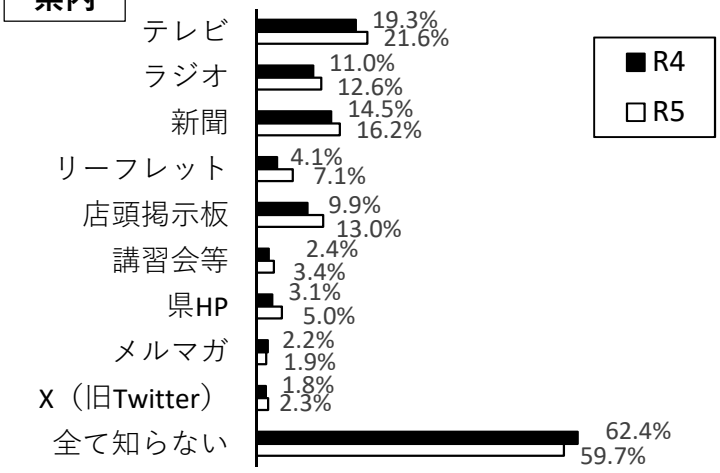
県内、首都圏ともに、20 歳代から 40 歳代では「細菌やウイルスによる食中毒」に、50 歳代から 60 歳代では「輸入食品の安全性」に対して不安を感じている割合が高かった。

全体的に、年代が上がるにつれ、食の安全に不安を感じる割合が増加する傾向がみられたが、一方で、県内、首都圏ともに、No. 9「食物アレルギー」に不安を感じる割合は、若い年代のほうが比較的高かった。

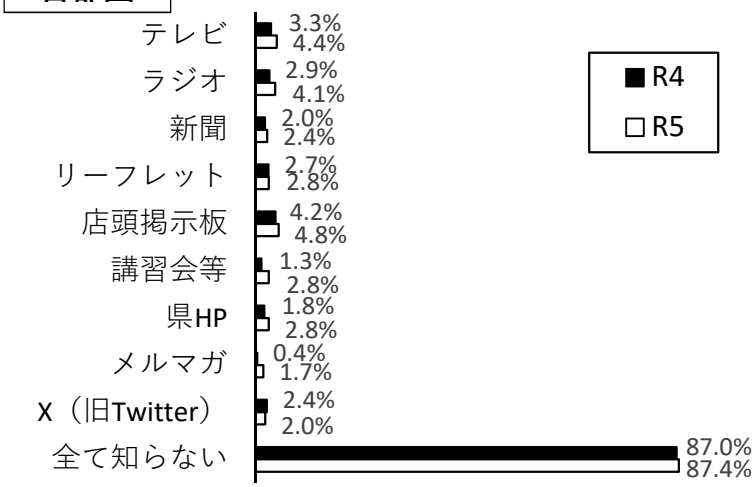
問４　新潟県では、次の方法で食の安全に関する情報を発信していますが、あなたが見聞きしたり、参加したことがあるものはありますか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	県のテレビ広報番組「ほっとホット新潟」、「週刊 県政ナビ」	105	19.3%	**2**	113	21.6%	**2**	18	3.3%	**3**	24	4.4%	**3**
2	ラジオ放送やラジオCM	60	11.0%	**4**	66	12.6%	**5**	16	2.9%	**4**	22	4.1%	**4**
3	新潟日報「県からのお知らせ」欄への掲載	79	14.5%	**3**	85	16.2%	**3**	11	2.0%	7	13	2.4%	8
4	新潟県が作成したリーフレット類 （「防ごうノロウイルス食中毒」、「きのこによる食中毒に注意！」など）	22	4.1%	6	37	7.1%	6	15	2.7%	**5**	15	2.8%	**5**
5	スーパーマーケットなど食料品店での店頭掲示板「にいがた食の安全インフォメーション」	54	9.9%	**5**	68	13.0%	**4**	23	4.2%	**2**	26	4.8%	**2**
6	県内保健所が開催するイベントや講習会（手洗い講座やきのこ講習会など）	13	2.4%	8	18	3.4%	8	7	1.3%	9	15	2.8%	**5**
7	県ホームページ「にいがた食の安全インフォメーション」	17	3.1%	7	26	5.0%	7	10	1.8%	8	15	2.8%	**5**
8	メールマガジン「いただきます！にいがた食の安全・安心通信」	12	2.2%	9	10	1.9%	10	2	0.4%	10	9	1.7%	10
9	X（旧Twitter）「にいがた食の安全」	10	1.8%	10	12	2.3%	9	13	2.4%	6	11	2.0%	9
10	いずれも知らない	339	62.4%	**1**	313	59.7%	**1**	480	87.0%	**1**	472	87.4%	**1**
	回答者数	543			524			552			540		

県内



首都圏



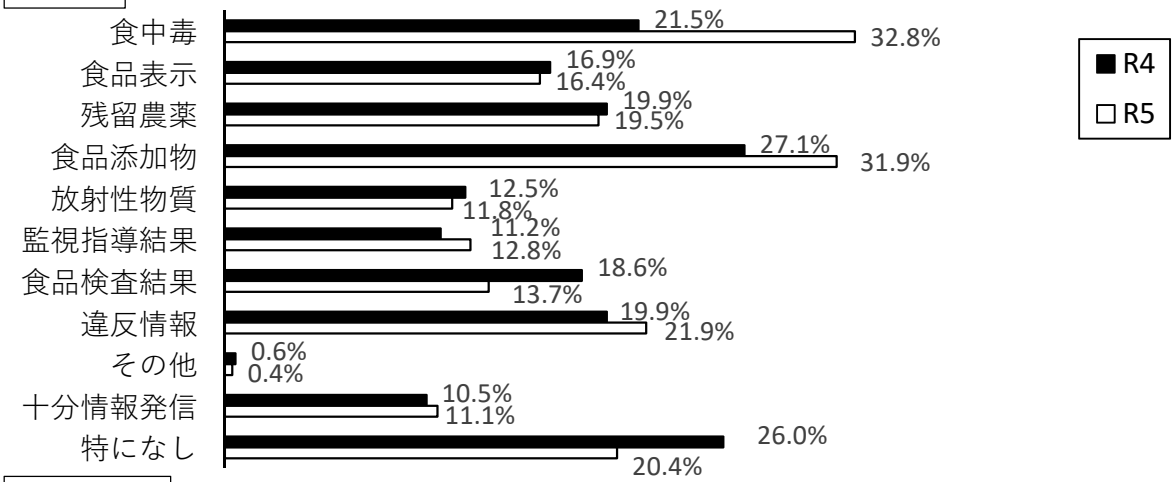
「いずれも知らない」が県内で約６割、首都圏で約９割を占め、前年同様、県が発信する食の安全に関する情報が、県民や首都圏住民にあまり伝わっていないことがうかがえた。

県内で最も認知されていたのは「県のテレビ広報番組」で、それ以外の「新潟日報」、「店頭掲示板」、「ラジオ」についても前年度と同様、上位を占めた。

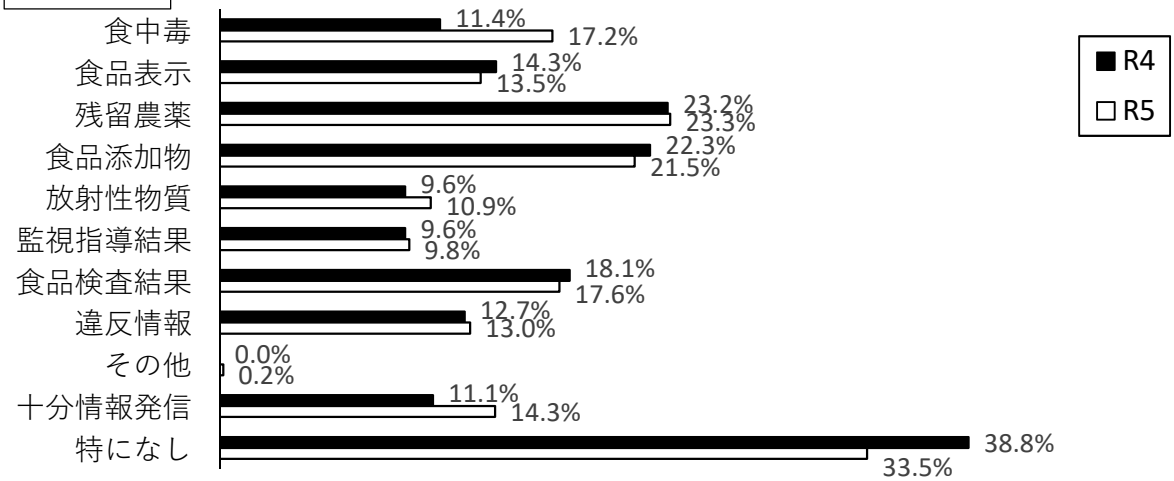
問５　新潟県では、食の安全に関する情報の発信に取り組んでいますが、あなたが新潟県から特に発信してほしい内容はどれですか。（3 つまで）

		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	食中毒の種類や予防法	117	21.5%	**3**	172	32.8%	**1**	63	11.4%	7	93	17.2%	**5**
2	食品表示の見方	92	16.9%	7	86	16.4%	6	79	14.3%	**5**	73	13.5%	7
3	残留農薬の安全性	108	19.9%	**4**	102	19.5%	**5**	128	23.2%	**2**	126	23.3%	**2**
4	食品添加物の安全性	147	27.1%	**1**	167	31.9%	**2**	123	22.3%	**3**	116	21.5%	**3**
5	放射性物質に関する知識	68	12.5%	8	62	11.8%	9	53	9.6%	9	59	10.9%	9
6	事業者に対する監視指導の実施状況	61	11.2%	9	67	12.8%	8	53	9.6%	9	53	9.8%	10
7	流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果	101	18.6%	6	72	13.7%	7	100	18.1%	**4**	95	17.6%	**4**
8	食中毒事件や法の基準に合わない（違反）食品の発生情報	108	19.9%	**4**	115	21.9%	**3**	70	12.7%	6	70	13.0%	8
9	その他	3	0.6%	11	2	0.4%	11	0	0.0%	11	1	0.2%	11
10	県が現状で行っている情報発信で十分だと思う	57	10.5%	10	58	11.1%	10	61	11.1%	8	77	14.3%	6
11	特になし	141	26.0%	**2**	107	20.4%	**4**	214	38.8%	**1**	181	33.5%	**1**
	回答者数	543			524			552			540		

県内



首都圏



「その他」回答内容

・国内と海外の添加物基準の比較
・農薬も添加物も安全性よりも危険性を発信してほしい
・無農薬、無化学肥料の表示　　など

県内では「食中毒の種類や予防法」、「食品添加物の安全性」、「食中毒事件や法の基準に合わない(違反)食品の発生情報」、「残留農薬の安全性」が上位を占めた。

首都圏では「残留農薬の安全性」、「食品添加物の安全性」、「流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果」が上位を占めた一方で、「特になし」の回答が、前年同様最も多かった。

令和４年度と比較し、特に増減が多かったのは県内における「食中毒の種類や予防法」で、前年度から 11.3 ポイント増加した。

一方で、「特になし」と回答した割合は県内、首都圏ともに減少（県内：5.6 ポイント減少、首都圏：5.3 ポイント減少）し、県からの積極的な情報発信を求める傾向がみられた。

【男女別（R5 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	食中毒	**31.2%**	34.5%	15.0%	19.5%
2	食品表示	14.7%	18.2%	14.3%	12.7%
3	残留農薬	16.9%	22.1%	24.2%	22.5%
4	食品添加物	27.8%	**36.0%**	20.5%	22.5%
5	放射性物質	8.3%	15.5%	10.6%	11.2%
6	監視指導結果	12.0%	13.6%	9.2%	10.5%
7	食品検査結果	9.0%	18.6%	19.0%	16.1%
8	違反情報	22.6%	21.3%	11.4%	14.6%
9	その他	0.4%	0.4%	0.0%	0.4%
10	十分情報発信	15.0%	7.0%	12.5%	16.1%
11	特になし	24.4%	16.3%	**36.6%**	**30.3%**

県内では多くの項目で、男性より女性のほうが情報発信を求める割合が高かった。特に男女でポイント差が大きかった項目は、「流通食品の残留農薬などの安全性に関する検査結果」（9.6 ポイント差)、「食品添加物の安全性」（8.2 ポイント差)、「放射性物質に関する知識」（7.2 ポイント差）であった。一方で、「特になし」については、男性の方が 8.1 ポイント高かった。

首都圏では、県内ほど大きな男女差は見られなかった。

【年代別（R5 年度)】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	**36.5%**	29.9%	**30.6%**	**30.8%**	36.3%
2	食品表示	17.6%	22.7%	10.8%	15.9%	16.3%
3	残留農薬	20.3%	20.6%	11.7%	19.6%	24.4%
4	食品添加物	31.1%	**33.0%**	25.2%	27.1%	**40.7%**
5	放射性物質	14.9%	13.4%	11.7%	8.4%	11.9%
6	監視指導結果	10.8%	11.3%	11.7%	13.1%	15.6%
7	食品検査結果	12.2%	11.3%	11.7%	14.0%	17.8%
8	違反情報	14.9%	15.5%	22.5%	26.2%	26.7%
9	その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%
10	十分情報発信	6.8%	8.2%	18.0%	10.3%	10.4%
11	特になし	24.3%	23.7%	23.4%	20.6%	13.3%

＜首都圏＞

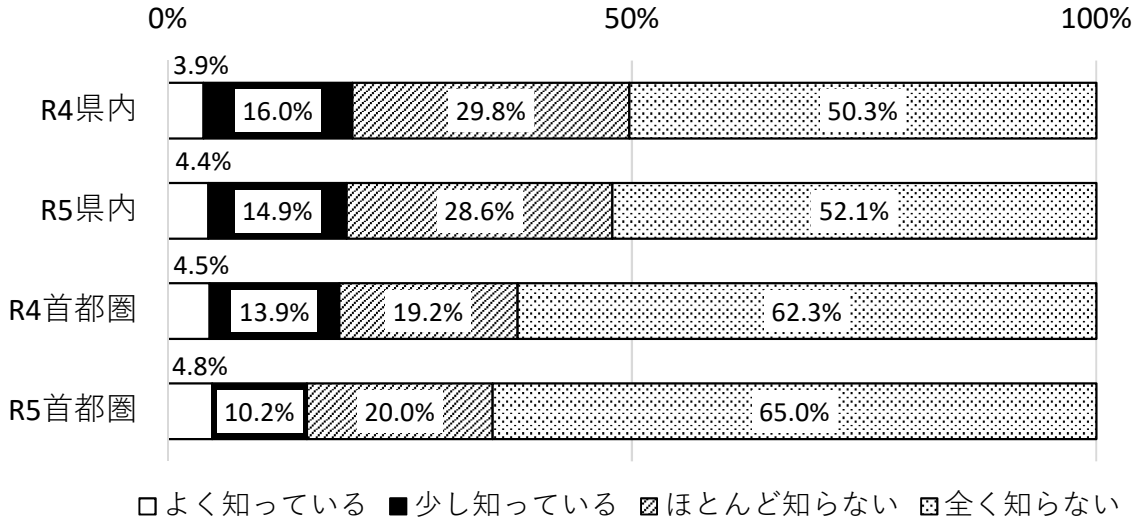
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	食中毒	30.4%	15.3%	17.6%	12.1%	12.1%
2	食品表示	17.4%	14.4%	13.7%	12.1%	10.3%
3	残留農薬	15.2%	23.4%	21.4%	23.2%	**32.7%**
4	食品添加物	21.7%	22.5%	22.9%	17.2%	22.4%
5	放射性物質	10.9%	16.2%	8.4%	13.1%	6.5%
6	監視指導結果	6.5%	16.2%	9.2%	6.1%	10.3%
7	食品検査結果	16.3%	26.1%	13.7%	10.1%	21.5%
8	違反情報	10.9%	18.9%	11.5%	8.1%	15.0%
9	その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%
10	十分情報発信	7.6%	10.8%	13.7%	19.2%	19.6%
11	特になし	**39.1%**	**30.6%**	**34.4%**	**34.3%**	29.9%

県内では、いずれの年代においても「食中毒の種類や予防法」、「食品添加物の安全性」を選択する割合が高かった。

首都圏では、「残留農薬の安全性」について、年代が上がるにつれて情報発信を求める割合が高くなる傾向が見られた。

問６　新潟県では、食品の製造業者、飲食業者、販売業者などの食品関連事業者に対し、ＨＡＣＣＰ（ハサップ）による衛生管理の普及を推進するため、ＨＡＣＣＰに対する消費者の認知度向上に取り組んでいます。あなたは、食品の衛生管理手法であるＨＡＣＣＰを知っていますか。（ひとつだけ）

		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%	
1	よく知っている（HACCPは内容も含めてよく知っている）	21	3.9%	19.9%	23	4.4%	19.3%	25	4.5%	18.5%	26	4.8%	15.0%
2	少し知っている（HACCPが食品に関係していることは知っている）	87	16.0%		78	14.9%		77	13.9%		55	10.2%	
3	ほとんど知らない（HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	162	29.8%	80.1%	150	28.6%	80.7%	106	19.2%	81.5%	108	20.0%	85.0%
4	全く知らない（HACCPという言葉も内容も知らなかった）	273	50.3%		273	52.1%		344	62.3%		351	65.0%	
	回答者数	543			524			552			540		



ＨＡＣＣＰについて「よく知っている」又は「少し知っている」の占める割合は、県内、首都圏ともに２割弱（県内：19.3%、首都圏：15.0%）にとどまったが、首都圏に食べ、県内の方がＨＡＣＣＰについての認知度は高い傾向がみられた。

一方で、県内、首都圏ともに半数以上が「全く知らない」と回答した。

【男女別（R5 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	よく知っている （HACCPは内容も含めてよく知っている）	6.4%	2.3%	6.6%	3.0%
2	少し知っている （HACCPが食品に関係していることは知っている）	16.2%	13.6%	10.3%	10.1%
3	ほとんど知らない （HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	29.7%	27.5%	20.1%	19.9%
4	全く知らない （HACCPという言葉も内容も知らなかった）	**47.7%**	**56.6%**	**63.0%**	**67.0%**

ＨＡＣＣＰについて「よく知っている」又は「少し知っている」の占める割合は、県内、首都圏ともに女性より男性のほうが高かった。

一方で、「全く知らない」の割合は、県内、首都圏とも女性の方が高かった。

【年代別（R5 年度)】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている （HACCPは内容も含めてよく知っている）	5.4%	3.1%	6.3%	4.7%	3.0%
2	少し知っている （HACCPが食品に関係していることは知っている）	20.3%	13.4%	10.8%	14.0%	17.0%
3	ほとんど知らない （HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	29.7%	27.8%	26.1%	23.4%	34.8%
4	全く知らない （HACCPという言葉も内容も知らなかった）	**44.6%**	**55.7%**	**56.8%**	**57.9%**	**45.2%**

＜首都圏＞

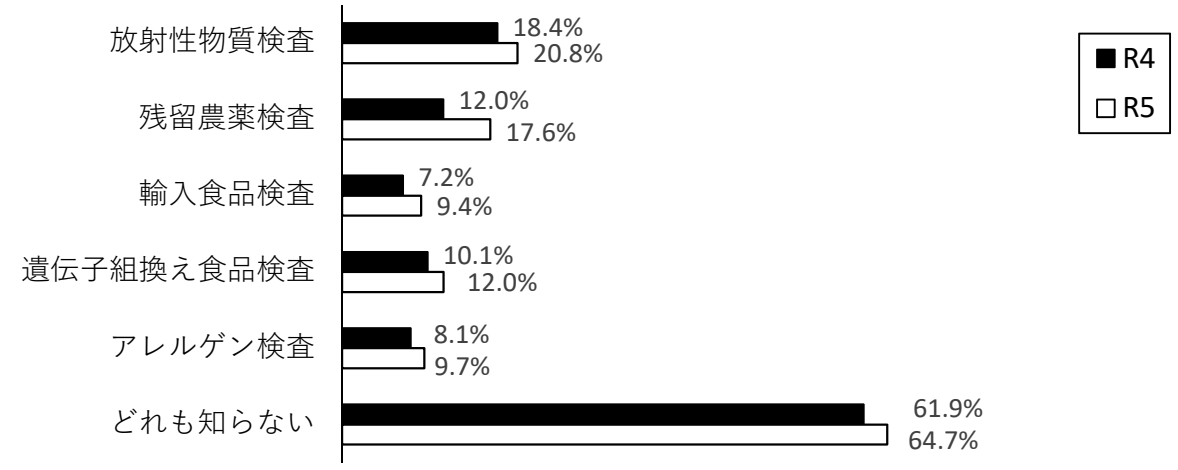
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	よく知っている （HACCPは内容も含めてよく知っている）	7.6%	5.4%	4.6%	4.0%	2.8%
2	少し知っている （HACCPが食品に関係していることは知っている）	17.4%	7.2%	5.3%	14.1%	9.3%
3	ほとんど知らない （HACCPという言葉は見聞きしたことがある）	10.9%	22.5%	24.4%	22.2%	17.8%
4	全く知らない （HACCPという言葉も内容も知らなかった）	**64.1%**	**64.9%**	**65.6%**	**59.6%**	**70.1%**

ＨＡＣＣＰについて「よく知っている」と回答した割合は、いずれの年代でも１割未満と低かったが、その中でも年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられた。

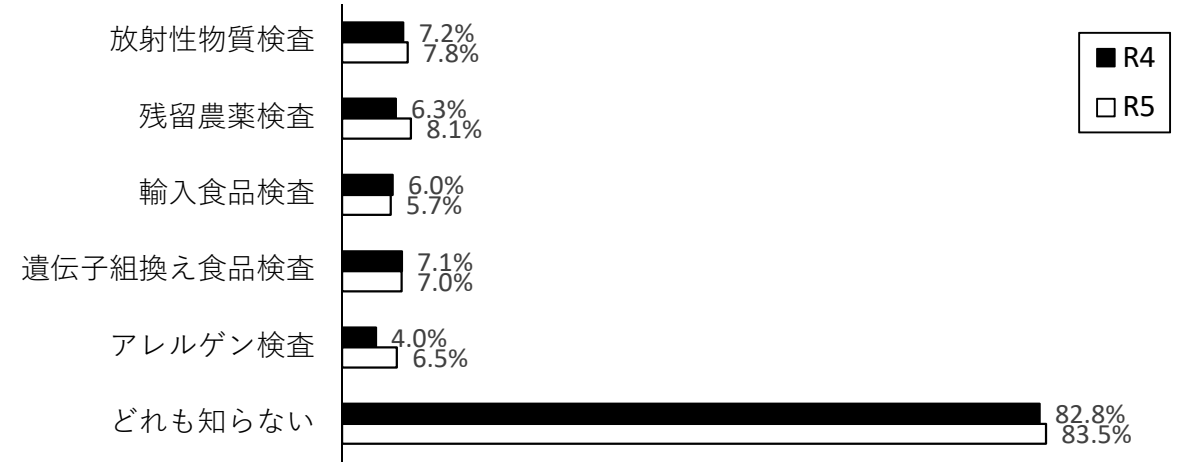
問７　新潟県では、様々な食品の検査を実施し、結果を公表しています。あなたは、新潟県が以下の食品検査を行っていることを知っていましたか。（いくつでも）

		県内						首都圏					
		Ｒ４年度			Ｒ５年度			Ｒ４年度			Ｒ５年度		
		件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位	件数	%	順位
1	食品の放射性物質検査	100	18.4%	**2**	109	20.8%	**2**	40	7.2%	**2**	42	7.8%	**3**
2	農産物の残留農薬検査	65	12.0%	**3**	92	17.6%	**3**	35	6.3%	**4**	44	8.1%	**2**
3	輸入食品の食品添加物や細菌の検査	39	7.2%	6	49	9.4%	6	33	6.0%	**5**	31	5.7%	6
4	遺伝子組換え食品の検査	55	10.1%	**4**	63	12.0%	**4**	39	7.1%	**3**	38	7.0%	**4**
5	アレルゲンを含む食品の検査	44	8.1%	**5**	51	9.7%	**5**	22	4.0%	6	35	6.5%	**5**
6	どれも知らない	336	61.9%	**1**	339	64.7%	**1**	457	82.8%	**1**	451	83.5%	**1**
	回答者数	543			524			552			540		

県内



首都圏



県内、首都圏ともに各検査項目の認知度はほぼ横ばいであり、「どれも知らない」が県内で７割弱、首都圏で約８割を占め、令和４年度とほぼ同様の傾向であった。

【男女別（R5 年度)】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	放射性物質検査	19.2%	22.5%	9.2%	6.4%
2	残留農薬検査	17.7%	17.4%	10.3%	6.0%
3	輸入食品検査	11.7%	7.0%	7.3%	4.1%
4	遺伝子組換え食品検査	10.5%	13.6%	7.7%	6.4%
5	アレルゲン検査	7.1%	12.4%	7.3%	5.6%
6	どれも知らない	**64.7%**	**64.7%**	**79.9%**	**87.3%**

県内、首都圏ともに男女で大きなポイント差はみられなかった。

【年代別（R5 年度)】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	10.8%	16.5%	20.7%	22.4%	28.1%
2	残留農薬検査	10.8%	13.4%	18.0%	16.8%	24.4%
3	輸入食品検査	10.8%	6.2%	9.9%	9.3%	10.4%
4	遺伝子組換え食品検査	17.6%	7.2%	12.6%	10.3%	13.3%
5	アレルゲン検査	14.9%	8.2%	12.6%	9.3%	5.9%
6	どれも知らない	**66.2%**	**68.0%**	**64.9%**	**66.4%**	**60.0%**

＜首都圏＞

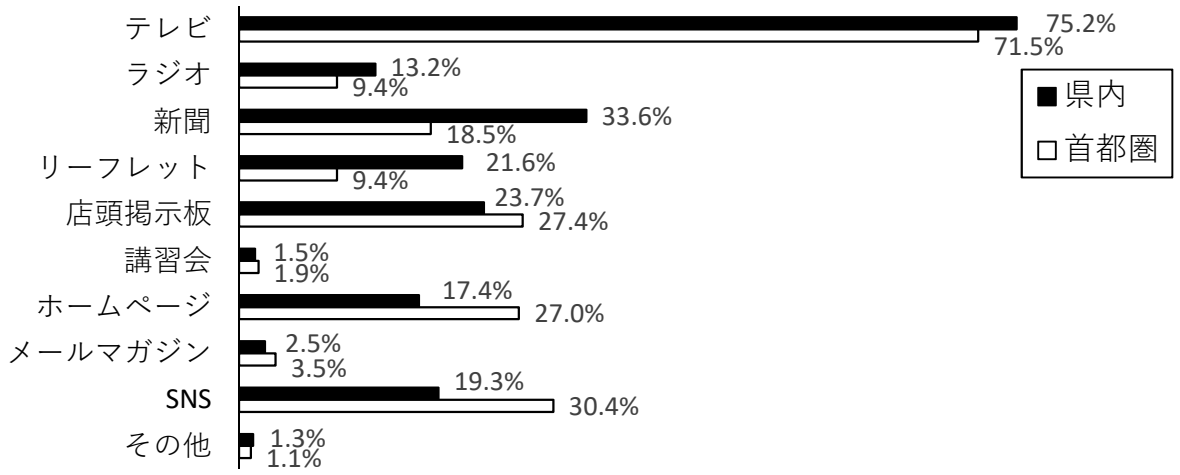
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	放射性物質検査	7.6%	6.3%	11.5%	9.1%	3.7%
2	残留農薬検査	7.6%	10.8%	8.4%	9.1%	4.7%
3	輸入食品検査	9.8%	4.5%	6.9%	6.1%	1.9%
4	遺伝子組換え食品検査	9.8%	9.0%	9.2%	3.0%	3.7%
5	アレルゲン検査	6.5%	7.2%	4.6%	9.1%	5.6%
6	どれも知らない	**81.5%**	**83.8%**	**80.2%**	**82.8%**	**89.7%**

県内では、年代が上がるにつれて、「食品の放射性物質検査」、「農産物の残留農薬検査」の結果について、比較的認知度が高い傾向が見られた。

首都圏では、年代によって検査の認知度について顕著な差はみられなかった。

問８　食の安全・安心に関する情報は、どのような方法で提供されれば利用しやすいですか？（３つまで）

		県内			首都圏		
		件数	%	順位	件数	%	順位
1	テレビ	394	75.2%	**1**	386	71.5%	**1**
2	ラジオ	69	13.2%	7	51	9.4%	6
3	新聞	176	33.6%	**2**	100	18.5%	**5**
4	チラシ・リーフレット	113	21.6%	**4**	51	9.4%	6
5	食料品店等での店頭掲示板	124	23.7%	**3**	148	27.4%	**3**
6	講習会	8	1.5%	9	10	1.9%	9
7	ホームページ	91	17.4%	6	146	27.0%	**4**
8	メールマガジン	13	2.5%	8	19	3.5%	8
9	SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）	101	19.3%	**5**	164	30.4%	**2**
10	その他	7	1.3%	10	6	1.1%	10
	回答者数	524			540		



県内、首都圏ともに、「テレビ」と回答した割合が最も高かった。

そのほか、県内では「新聞」、「食料品等での店頭掲示板」、「チラシ・リーフレット」などの紙媒体を中心とした情報提供を求める傾向がみられた。

「その他」回答内容

・yahoo ニュース
・YouTube
・LINE の自治体公式アカウント　　など

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	テレビ	**75.9%**	**74.4%**	**72.2%**	**70.8%**
2	ラジオ	14.3%	12.0%	12.1%	6.7%
3	新聞	30.1%	37.2%	20.5%	16.5%
4	リーフレット	14.7%	28.7%	8.1%	10.9%
5	店頭掲示板	18.0%	29.5%	22.7%	32.2%
6	講習会	1.5%	1.6%	3.3%	0.4%
7	ホームページ	21.4%	13.2%	29.7%	24.3%
8	メールマガジン	3.0%	1.9%	4.4%	2.6%
9	SNS	17.3%	21.3%	27.5%	33.3%
10	その他	1.9%	0.8%	0.4%	1.9%

男女差がみられた項目として、県内では、「ホームページ」と回答した割合は男性の方が高く、「新聞」、「チラシ・リーフレット」、「食料品店等での店頭掲示板」と回答した割合は女性の方が高かった。

首都圏では、「ホームページ」と回答した割合は男性の方が高く、「食料品店等での店頭掲示板」、「SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）と回答した割合は女性の方が高かった。

【年代別】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	テレビ	**68.9%**	**77.3%**	**73.0%**	**72.9%**	**80.7%**
2	ラジオ	8.1%	10.3%	17.1%	15.0%	13.3%
3	新聞	24.3%	23.7%	25.2%	41.1%	46.7%
4	リーフレット	12.2%	20.6%	15.3%	23.4%	31.1%
5	店頭掲示板	16.2%	20.6%	26.1%	25.2%	26.7%
6	講習会	1.4%	2.1%	2.7%	0.9%	0.7%
7	ホームページ	18.9%	21.6%	14.4%	18.7%	14.8%
8	メールマガジン	0.0%	3.1%	0.0%	2.8%	5.2%
9	SNS	41.9%	29.9%	18.0%	12.1%	5.9%
10	その他	2.7%	2.1%	0.9%	0.9%	0.7%

＜首都圏＞

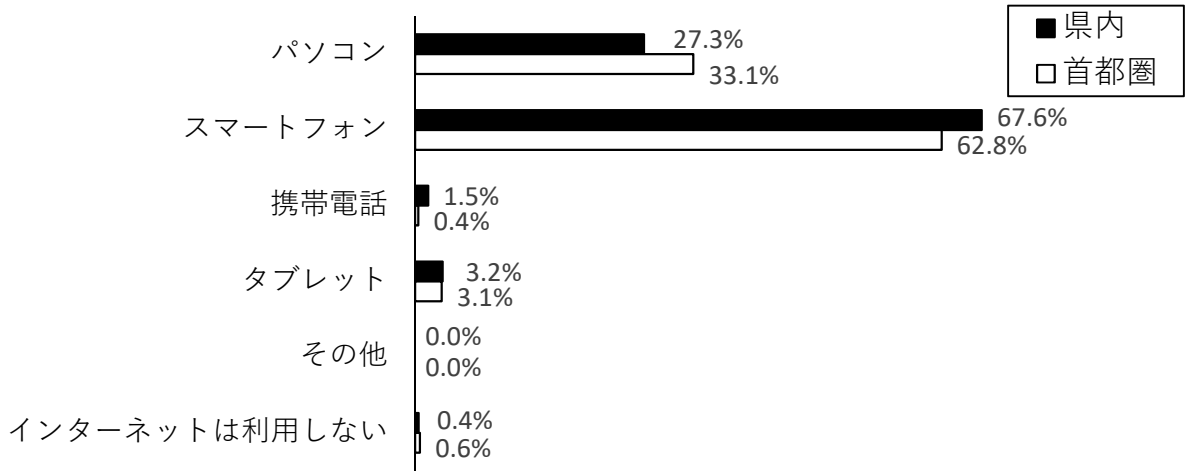
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	テレビ	**65.2%**	**65.8%**	**67.2%**	**71.7%**	**87.9%**
2	ラジオ	7.6%	10.8%	8.4%	11.1%	9.3%
3	新聞	6.5%	10.8%	16.8%	25.3%	32.7%
4	リーフレット	8.7%	8.1%	11.5%	6.1%	12.1%
5	店頭掲示板	20.7%	26.1%	31.3%	26.3%	30.8%
6	講習会	5.4%	0.9%	0.8%	2.0%	0.9%
7	ホームページ	21.7%	26.1%	27.5%	33.3%	26.2%
8	メールマガジン	2.2%	2.7%	4.6%	1.0%	6.5%
9	SNS	63.0%	45.9%	20.6%	17.2%	10.3%
10	その他	1.1%	0.9%	2.3%	0.0%	0.9%

県内、首都圏ともに、年代が低くなるにつれ、SNS による情報発信を求める傾向がみられた。

一方で、年代が高くなるにつれ、「新聞」、「チラシ・リーフレット」、「食料品店等での店頭掲示板」など紙媒体による情報発信を求める傾向がみられた。

問９　あなたがインターネットを利用する際に主に用いる端末は何ですか？（ひとつだけ）

		県内			首都圏		
		件数	%	順位	件数	%	順位
1	パソコン	143	27.3%	**2**	179	33.1%	**2**
2	スマートフォン	354	67.6%	**1**	339	62.8%	**1**
3	携帯電話（スマートフォンを除く）	8	1.5%	4	2	0.4%	5
4	タブレット	17	3.2%	**3**	17	3.1%	**3**
5	その他	0	0.0%	6	0	0.0%	6
6	インターネットは利用しない	2	0.4%	5	3	0.6%	4
	回答者数	524			540		



県内、首都圏ともスマートフォンによるインターネットの閲覧が多数（県内、首都圏ともに約６割）を占めた。

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	パソコン	34.2%	20.2%	39.2%	27.0%
2	スマートフォン	**59.4%**	**76.0%**	**56.4%**	**69.3%**
3	携帯電話	1.9%	1.2%	0.0%	0.7%
4	タブレット	3.8%	2.7%	3.3%	3.0%
5	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	インターネットは利用しない	0.8%	0.0%	1.1%	0.0%

男女ともに「スマートフォン」によりインターネットを閲覧している割合が最も高かった。

女性に比べ、男性の方が「パソコン」により「インターネット」を閲覧している割合が高かった。

【年代別】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	パソコン	10.8%	18.6%	21.6%	37.4%	39.3%
2	スマートフォン	**82.4%**	**77.3%**	**71.2%**	**59.8%**	**55.6%**
3	携帯電話	5.4%	3.1%	0.9%	0.0%	0.0%
4	タブレット	1.4%	0.0%	5.4%	2.8%	5.2%
5	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	インターネットは利用しない	0.0%	1.0%	0.9%	0.0%	0.0%

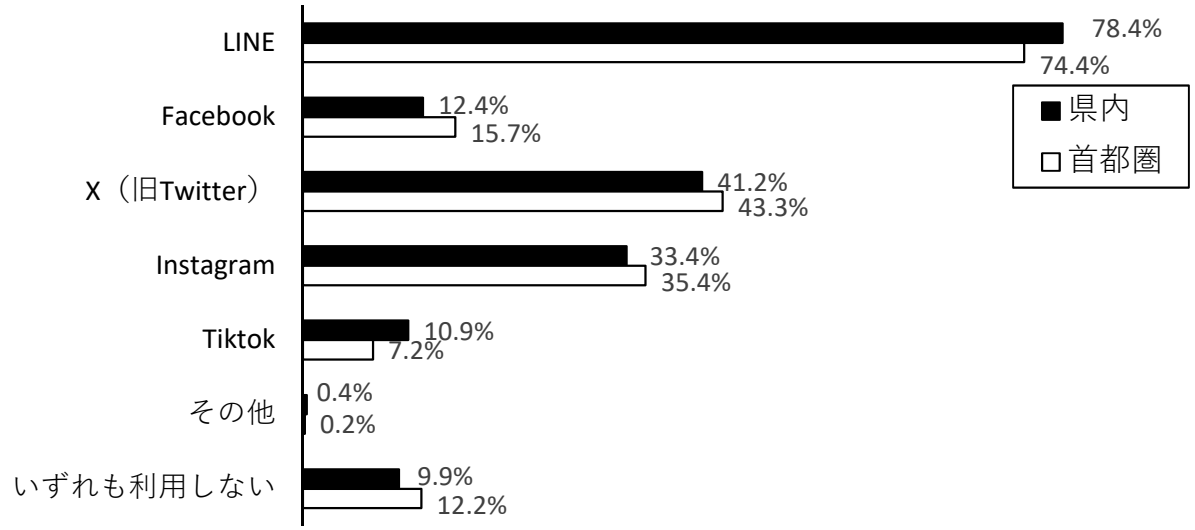
＜首都圏＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	パソコン	8.7%	18.9%	34.4%	47.5%	**54.2%**
2	スマートフォン	**87.0%**	**77.5%**	**61.1%**	**49.5%**	41.1%
3	携帯電話	1.1%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
4	タブレット	3.3%	0.9%	3.8%	3.0%	4.7%
5	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	インターネットは利用しない	0.0%	1.8%	0.8%	0.0%	0.0%

年代が高くなるにつれ、「パソコン」を選択する割合が高くなる傾向がみられた。首都圏の 60 歳代では「パソコン」が「スマートフォン」を上回った。

問 10　あなたがよく使う SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）は何ですか？（いくつでも）

		県内			首都圏		
		件数	%	順位	件数	%	順位
1	LINE	411	78.4%	**1**	402	74.4%	**1**
2	Facebook	65	12.4%	4	85	15.7%	4
3	X（旧Twitter）	216	41.2%	**2**	234	43.3%	**2**
4	Instagram	175	33.4%	**3**	191	35.4%	**3**
5	Tiktok	57	10.9%	5	39	7.2%	6
6	その他	2	0.4%	7	1	0.2%	7
7	いずれも利用しない	52	9.9%	6	66	12.2%	5
	回答者数	524			540		



県内、首都圏ともに「LINE」、「X（旧 Twitter）」、「Instagram」を利用する割合が高かった。

【男女別】

		県内男性	県内女性	首都圏男性	首都圏女性
1	LINE	**75.9%**	**81.0%**	**65.9%**	**83.1%**
2	Facebook	16.5%	8.1%	15.8%	15.7%
3	X（旧Twitter）	41.0%	41.5%	44.7%	41.9%
4	Instagram	26.3%	40.7%	24.5%	46.4%
5	Tiktok	8.3%	13.6%	8.4%	6.0%
5	その他	0.0%	0.8%	0.4%	0.0%
6	いずれも利用しない	12.4%	7.4%	17.9%	6.4%

男女ともに「LINE」の利用率が高かった。男性に比べ、女性の方が「Instagram」の利用率が高い傾向がみられた。

【年代別】

＜県内＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	LINE	**83.8%**	**86.6%**	**67.6%**	**78.5%**	**78.5%**
2	Facebook	6.8%	12.4%	13.5%	14.0%	13.3%
3	X（旧Twitter）	64.9%	49.5%	46.8%	37.4%	20.7%
4	Instagram	51.4%	45.4%	39.6%	25.2%	16.3%
5	Tiktok	27.0%	13.4%	9.9%	6.5%	4.4%
6	その他	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%
7	いずれも利用しない	1.4%	5.2%	12.6%	10.3%	15.6%

＜首都圏＞

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
1	LINE	**79.3%**	**84.7%**	**66.4%**	**64.6%**	**78.5%**
2	Facebook	13.0%	16.2%	17.6%	16.2%	15.0%
3	X（旧Twitter）	69.6%	61.3%	38.9%	31.3%	18.7%
4	Instagram	63.0%	45.0%	32.1%	23.2%	16.8%
5	Tiktok	17.4%	5.4%	8.4%	1.0%	4.7%
6	その他	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7	いずれも利用しない	1.1%	3.6%	16.8%	22.2%	15.9%

すべての年代で「LINE」の利用率が最も高かった。年代が低くなるにつれ、「X（旧Twitter）」、「Instagram」の利用率も高くなる傾向がみられた。